

箱根路

わが越え未だは

伊豆の海や沖よりの島に

波の音も見ゆ

源実朝

むかし、神々が棲んだという箱根を背に

銘石と燈籠が美しい調和をかもし庭に

京風数寄屋造りの瀟洒な離れ屋が点在し、

打ち水に濡れた石畳の道を丹精された

庭木や流水、苔や羊歯が、やすらかに彩り、

閑静をきわめた佇いの

あたま石亭。



日本の伝統美に情趣を添え、
由緒ある銘石、燈籠を配した玄関をくぐると、
溪山に雅びの粋をきわめたドラマの世界。